

自治体問題研究所・JCJ

自治体問題研究所の組織と会員

研究所は、設立の趣旨と呼びかけに賛同し、民主的な地方自治の発展をめざす活動に積極的に参加・協力する個人および団体の会員をもって組織されています。住民・労働者・研究者・地方議員等幅広い人々よりなる会員は、研究所の活動を支え、参加し、発展させる主人公です。会員になる場合にも研究歴や地位など一切の資格条件はなく、自主的で民主的な組織です。

■ JCJ（日本ジャーナリスト会議）

□ JCJの目的

- 1、真実の報道を通じて世界の報道を守る
- 2、言論・出版の自由を守る
- 3、ジャーナリスト相互の親睦をはかり、生活の向上をはかる
- 4、世界のジャーナリストとの連絡、協力、交流をはかる
- 5、不当に圧迫されたジャーナリストを支持、援助する

□ JCJの組織

現在、会員は約800人。新聞、通信、放送、出版、写真、広告、機関紙、評論、研究の分野に会員がいる。代表委員、運営委員会のほか、組織委員会、企画委員会、共闘渉外委員会、機関紙編集委員会、書評委員会、広告委員会、ホームページ委員会、国際委員会、JCJ賞推薦委員会、JCJ賞基金運用委員会、財政委員会などの委員会と、分野別、地域別の部会、支部からなる。

■ 広島支部のあゆみ

日本ジャーナリスト会議広島支部は、1960年の安保闘争とその後のマスコミ労働者への弾圧反対闘争の中で生まれた。

60年代の後半、広島放送局労働者や通信社記者にかけられた不当な攻撃に対し、マスコミ労働者と労働組合は果敢に闘った。同時に、こうした弾圧を跳ね返すためには、自らが携わる記事や番組の質にも目を向けなければならなかった。

1967年2月、日本ジャーナリスト会議広島支部が生まれた。中国新聞、中国放送（当時ラジオ中国）、広島テレビをはじめ全国紙、地方紙、放送局の県内支局・通信部などに勤務する記者やディレクターが参加した。

70年代に入り、広島支部は機関誌「広島ジャーナリスト」を発行、被爆者問題や反核・平和運動について論陣を張った。また会員も編集に加わって、被爆者に関する数多くの著作が刊行された。「被爆二世」（広島記者団、1972年、時事通信社）、「鎮魂の海峡」（深川宗俊、1974年、現代史出版）、「白いチョゴリの被爆者」（広島県朝鮮人被爆者協議会、1979年、労働旬報社）、「原爆孤老」（「原爆孤老」刊行委員会、1980年、労働教育センター）などである。

1972年には優れたジャーナリズム活動に贈られるJCJ賞を受賞した。